

読む人の幸せを心に願って作る

喜びのタネまき新聞

No.
657

〈合掌の気持ち〉

ダスキン創業者・鈴木清一の月命日には、当社の働きさん（社員）が墓参し、お墓周りの掃除や献花、線香をあげています。

毎年8月の命日には役員全員が墓参しますが、私はその他にもダスキン定時株主総会後には必ず墓参し、一年間の会社の状況を報告しています。

社長就任時、また、昨年の会長就任時に墓参した際には、就任の決意など、その時々のお思いを報告。そして時には反省することなども、墓前で手を合わせて創業者に報告しています。

お墓参りだけでなく、神社仏閣に参拝して手を合わせると、多くの人が清らかな気持ちになると思います。悩みがある時などは願い事が多くなるかもしれない時も、「今を生かされていることに感謝すること」と教わりました。

その気持ちを、参拝した時だけでなく常に持つことが出来ればいいのですが、日々、仕事や生活で忙しく過ごす暮らしの中では忘れてしまうことがあります。

「生かされていることに感謝する」気持ちを常に持ち続けることが出来なくても、就寝前と起床後に手を合わせて「合掌」することで、心が清らかになり、前向きな、そして豊かな気持ちで日々を過ごせるのではないかと思います。

※イラストはイメージです



沖縄県

由布島

八重山諸島に属する離島で、亜熱帯植物の楽園です。西表島から三線が流れる水牛車に乗り島へ渡ります。

株式会社ダスキン会長

山村輝治



沖縄県の畑の約半分がサトウキビ畑。高さは3メートルにのぼる



“染め”では、のり置きした模様の上から5〜6回ほど刷毛で色を重ねる



葉を煮出して染液をつくる工程では、サトウキビの甘い香りが漂う



葉の刈り取り時期によって色が異なり、技法の違いもあるため生まれる作品もさまざま



特産を生かした
うちなーの染織物

ウーヅ染め

サトウキビから生まれた
自然の優しい色

沖縄県の県庁所在地である那覇市に隣接し、農業が盛んな地域として栄えてきた豊見城市とみぎすし。そんな南国の自然豊かな街で生まれた染織物が「ウーヅ染め」です。

ウーヅとは、沖縄の方言でサトウキビのこと。サトウキビの葉や穂を煮出した染料を使うウーヅ染めは、若草色や萌黄色などの緑色から、落ち着いた黄色まで、豊かな色彩が魅力です。葉を刈り取る季節によって色合いが変わるものだといひ、

ウーヅ染めは、サトウキビの葉を細かく刻むところから始まります。「葉を大きな寸胴鍋に入れて2〜3時間かけて煮出してから濾し、染液が出来るんです」と、染め職人の運天みどりさんは手際よくサクサクと葉を刻む工程を見せてくれました。その後、「染め」は染料で麻や絹、木綿などの布地にのり置きをして模様付け、染めていきます。「織り」は糸を染め整経し、はた織り機で織りあげていきます。織り職人の熊谷雅江さんは「絹糸は織れるスピードが1時間で20センチほど。根気がいりますね」と、その苦労を語ってくれました。

島の女性たちが紡ぐ 人と自然の循環

もともとは、平成元年に豊見城市の村おこし事業として考案されたというウーヅ染め。「最初は2人から始まりましたが、現在では10名以上の組合員が製作に励んでいます」と玉那覇さん。一人前になるには十年はかかると言われていますが、未経験から学び始め、今や立派な職人として活躍されている方も多いうです。

また、染料の材料となるサトウキビの葉や穂は地元の農家から提供してもらっており、葉を刈り取る際は農家の方と連携して行っているのだそう。「下葉は幹を育てるために刈り取る必要があるので、農家の方にも喜んでいただけているようです。冬に



布を染める“染め”(後染め)と糸を染めてから織る“織り”(先染め)がある

年に一度、冬の時期にだけ収穫できる穂先で染色したものは美しい薄紅色。どれも自然が醸し出す、優しい色合いが見る人を魅了します。

豊見城市ウーヅ染め協同組合の代表理事を務める玉那覇清美さんは、「色の違いもありますが、『染め』と『織り』の2つの技法があるのも特徴です。同じ染料を使っているけど、布地を染める『染め』は繊細な柄が掛け、糸を染めてから織る『織り』では立体的な柄が出来るなど、仕上がりの風合いが異なります。同じ組合に両方の職人がいるのも珍しいんですよ」と教えてくれました。



穂で染色した糸で織っている様子

なるとそろそろあそこの畑が穂の収穫時期かなと、いろいろな畑の状況を観察する癖が付きましたね」と、玉那覇さんたちは顔を見合わせ笑いながら話してくれました。さらに、染液を煮出した後の葉は肥料として土に返しているそうです。

「染め」も「織り」もサトウキビをモチーフとした柄が多く、沖縄の魅力がギュッと詰まっているウーヅ染め。地元の素材を使い、島の女性たちの手で紡がれる美しい染織物は、今日も人々の暮らしを彩っています。

ウーヅ染めのふるさと
沖縄県豊見城市

沖縄本島南部に位置し、那覇空港からも程近い豊見城市。肥沃な農地に恵まれ、トマトやサトウキビ、葉野菜やマンゴーなどの栽培が盛んに行われています。また、伝統漁船で競漕を行うハーリー発祥の地としても有名です。

台所の相談室

気温が下がり、ぐっと冷え込むこの時期は温かい料理が欠かせません。簡単かつ、アツアツがおいしい鍋レシピで、体をじんわりほぐしてください。

FILE 40

うなぎとタレのうま味をなじませ、お鍋の出汁まで楽しんで。

まだまだ寒さが厳しいこの頃。今年もお鍋を囲んで、体の芯から温まりましょう。

今回は、旅先で食べて以来、家でも作るようになったうなぎの鍋をご紹介します。材料も作り方も、とてもシンプルです。

まずは、スーパーなどで市販されているうなぎのかば焼きと、板麩を準備してください。板麩とは、その名前の通り薄く板状になった乾燥麩のこと。

昆布を水に一晩つけて出汁をとり、切り分けたかば焼きと一緒に鍋に入れます。タレは洗い流さずに、買ってきたまま使ってください。そうすることで、うなぎのうま味も加わった、しつかりおいしい出汁が出来ます。それを板麩にたっぷり含ませたら、あつという間に完成です。

うま味のきいた出汁は、一滴も残さず飲み干してしまってください。

今回のお悩み

毎年、冬になると紹介される飛田さんの鍋料理が楽しみです。過去に掲載された「みぞれ鍋」「お粥鍋」などもリピートしていて、家族からもおいしいと大好評！今年も鍋レシピを教えてください。(山口県・女性)



ひだかずを 飛田和緒さん

料理家。1964年、東京都生まれ。独自のアイデアレシピが人気。新刊の『仕込んで、使って、一年中楽しめる みその本』(KADOKAWA)をはじめ、著書多数。

のおいしさ。ふわっとやわらかな板麩も、スルルスリと胃に収まります。イメージ的には、具たくさんのおすましといった感じですよ。

板麩なら、水戻しはせずそのまま使います。車麩のような厚みのある麩を使う場合は、水で戻してから食べやすい大きさに切り、出汁と合わせるとういでしょう。

うなぎと乾燥麩の鍋

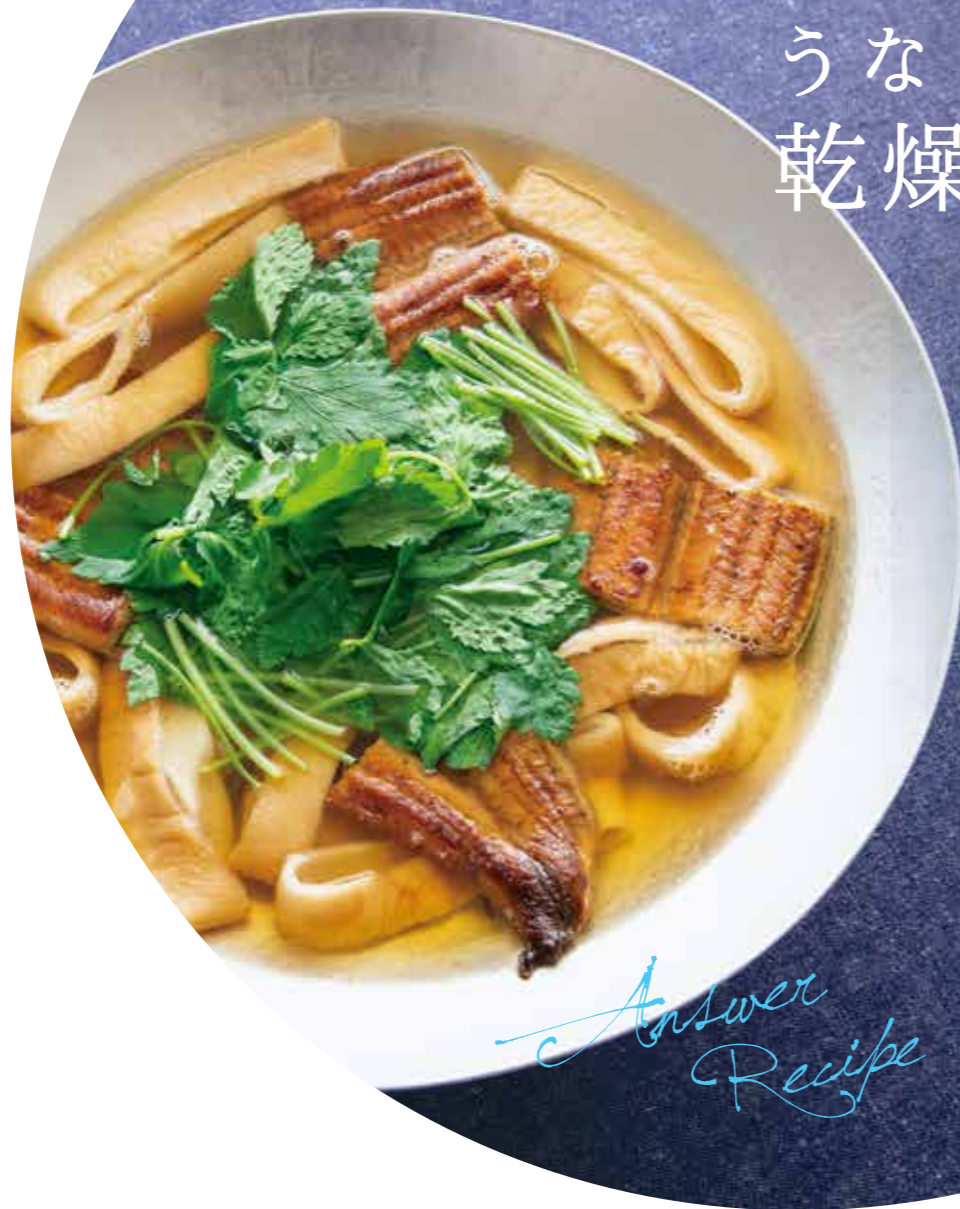
【材料(4人分)】

- うなぎのかば焼き(市販)……大1枚
- 板麩……2枚
- 三つ葉……2束
- 昆布出汁……6カップ
- 塩……小さじ1/2くらい
- 薄口醤油……小さじ1
- すだちなどの柑橘……あれば適量
- 粉山椒……あれば適量

【作り方】

- 1 うなぎのかば焼き、板麩はそれぞれひと口大に切り、三つ葉は3cmほどの長さに切る。
- 2 鍋に昆布出汁を入れて温め、うなぎのかば焼きと板麩を入れてさっと煮る。
- 3 味見をしてから塩と薄口醤油で味を調え、三つ葉を入れてひと煮立ちさせる。
- 4 お好みですだちなどの柑橘を搾り、粉山椒を振って食べる。

Answer Recipe



飛田和緒さん

うなぎのお鍋



乾燥麩は、日持ちするので常備しておくとお便利食材の一つです。

今回のレシピのようにお鍋や汁物に入れば、出汁を含んでふんわりとおいしくなります。甘辛く煮て卵とじにしたり、豚肉の炒め物に合わせたりと、揚げを使うような感覚で調理してみてください。食卓での出番が増えると思いますよ。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとした悩みを、飛田さんに相談してみませんか？
お便りをお待ちしています。
宛先は裏表紙をご覧ください。



ほほえみのひろば



親切な車掌さん

長野県上伊那郡 日岐博子さん

小学3年と保育園に通う2人の孫と一緒に、私の実家へ初めて電車で行くこと。いつもは車で往復しているため、少し緊張感のあるお出かけです。

車内で孫が車掌さんから切符を買おうとしたところ、うっかりお金が入ったビニール袋ごと渡してしまいました。車掌さんは「いいですよ」と言って運賃分を取り出し、私たちの下車駅も確認。駅が近づくと「次ですよ」と、「丁寧」に教えてくれたのです。

親切な車掌さんのおかげで心が和み、車窓からの景色も楽しむことが出来ました。



車掌さんの優しさに、
電車が好きになりました！

家族でぺったん

福岡県小郡市 黒田喜美枝さん

年の瀬に、息子家族と餅つきに挑戦しました。

パラパラと雪が舞うなか、まきを割り、羽釜の蒸し器にもち米を入れて火にかけます。蒸し上がったらごま塩を振って、まずはそのままおこわとして皆で味見。その後、臼ときねで餅をつき、大根餅やきな粉餅にしていたいただきました。自分たちでついた餅のおいしさは、想像以上。きねでつくのが面白かったようで、孫たちも大喜びでした。

次回は、海外にいる次男家族も一緒に、皆で餅つきが出来ればと思います。



年末の大仕事！
おいしく良いお年を
迎えられる何よりです。

歌の力

千葉県八千代市 奈良直美さん

子どものころから合唱が好きで、気分が落ち込むと歌を歌うようにしています。

小学4年から大学を卒業するまで、ずっと合唱さんまの日々でした。童謡や混声合唱曲など、皆で歌って美しいハーモニーが生まれた時には胸が熱くなったものです。合唱曲は今でもよく覚えており、テープを聴いて歌うことも。一つひとつの歌詞を聴くと、若いころには感じなかった作詞家の思いが伝わるような気がします。

心が元気になり、人に優しくなれる。私にとって歌は、大切な存在です。



大好きな歌を歌って
笑顔あふれる毎日が
送れますように！

生命力あふれる庭

愛知県豊橋市 浅井洋子さん

おうち時間をたっぷり使って、自宅で草花を育てています。

「近所にも草花の好きな方がいらっしやるので、苗を交換し合うことも。今では、さまざまな種類のスイセンが小さな庭を埋め尽くし、プランターにはたくさんパンジーが咲き誇っています。満開の庭を、メジロやモズが元気に飛び交う姿も見られるようになりました。

育てた草花や小鳥たちをゆっくり眺めていると、幸せな気持ちになります。



カラフルで
素敵なお庭の光景が
目に浮かびます。

大好きなスイセン

大阪府堺市 郡登志子さん

1月生まれの私は、この時期に見頃を迎えるスイセンが大好きです。その花を見ると、今は亡き夫と淡路島のスイセンの名所へ旅したことを思い出します。

ある日のこと、親友が大切に育てたスイセンをたくさん持って来てくれました。いただいた花はすぐ花瓶に生けて、各部屋で飾ることに。それからというもの、スイセンのみずみずしく甘い香りが家中に広がり、清楚な姿を見てはうっとりする毎日です。

親友の優しい心遣いに感謝しています。



スイセンの
素敵な思い出が
また一つ増えましたね。

便利なスマホ

石川県鳳珠郡 山下久子さん

78歳を目前に、ついにスマートフォンデビューをしました。

元々、私は関西に住んでいたのですが、結婚を機に石川県へ。当時、一般家庭に電話機はなく、実家の母への連絡手段は手紙だけでした。母が読みやすいよう、大きな文字で一生懸命書いた記憶があります。

スマートフォンを持った今は、娘2人と孫1人との4人で近況報告することも。遠く離れた人たちと、自由におしゃべりすることが出来るようになり、良い世の中になったなあと感じています。



娘さんやお孫さんも
すぐに声が聞けて
喜ばれているので、うれし
ね。

【燈々無尽】

現状維持は退歩

今のままでも、いいんだ。
と、私たちは、どうしても
現状維持になりやすい。
未知の世界は不安です。
しかし、
人生のロマンを求めるならば、
勇気を出して
新しいチャンス
つかむ事です。
ダスキン創業者 鈴木清一

愛の輪通信

「幸福の国」と呼ばれる
デンマークで学んできました



デンマークでは、ポテトと豚肉がメインの北欧独特の食生活に慣れるまでに数カ月かかりましたが、学校での生活は毎日が新鮮な驚きの連続でした。

私が学んだ学校ではインクルーシブ教育を大事にし、健常者の学生が障がいのある学生のヘルパーをしながら共同生活を送ります。全校生徒200人で42キロメートルを歩く遠足では、時には歌い、全員で鼓舞しながら一晩かけて歩きまりました。その光景はとても印象的で、助け合って生きていくことの大切さを学びました。



このコーナーについては
ダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270

愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。





読者の皆様から送りいただいた
素敵な1枚をご紹介します。



手作り雪だるまと背比べ!
秋田県鹿角市 玉内 美恵子さん



水玉みtainな雪景色
北海道札幌市 大賀 浩子さん



可愛い鬼がやってきた!
栃木県大田原市 磯 千寿子さん



冬を彩る大きなハロタン
広島県福山市 佐藤 順子さん

ダスキンの「SDGsかるた」は、SDGsの17の目標を、ダスキンの商品やサービスと結びつけて紹介しています。

だ 出したゴミ
持ち帰ったら
街もきれい

だ だ

解説
外出先で出たゴミは、持ち帰って捨てる習慣を。皆が住みよい街にするために、地域活動に参加するのも楽しそう♪

あなたのお便りや写真をお寄せください

うれしかったことや、誰かに聞いてもらいたいことなど、
身近な話題をお寄せください。心よりお待ちしております。

◎送り先
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキンの広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

◎お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
●ご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
●作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、ご返却は致しかねますのでご了承ください。
●本号は、2022年12月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

バックナンバーはこちらから!

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。
<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



引越しのおそうじにはダスキンのモップが便利!

引越しのお手続きは
〈ダスキンのコンタクトセンター〉
担当店・Webページ・0120-100100まで



株式会社 **ダスキンの**
発行・編集: 広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキンのコンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100 www.duskin.co.jp